



2022年
7月15日(金)
≡
8月31日(水)

- ◆乾小天守
- ◆イの渡櫓
- ◆口の渡櫓
- ◆ハの渡櫓
- ◆東小天守

世界文化遺産・国宝

姫路城 特別公開

2023年に世界文化遺産登録30周年を迎える姫路城。

白く美しい白壁から“白鷺”に例えられる姫路城は、安土桃山時代から江戸時代初期にかけての建築技術の粋を極めた「日本一の名城」と言えます。

建築物のほとんどが国宝や重要文化財に指定されており、普段は非公開の場所も多いですが、

今回は、プレ兵庫デスティネーションキャンペーンの開催を記念し、

いずれも国宝である「乾小天守」「イの渡櫓」「口の渡櫓」「ハの渡櫓」「東小天守」の5箇所を特別に公開します。

姫路城 特別公開

姫路城の小天守は、大天守の北、北西、西に配し、

それぞれをイ、ロ、ハ、ニの渡櫓で中庭を囲むようにロの字型に結ぶなど、連立式天守群を構成しています。

今回は、特別に普段は公開していない乾小天守、イ、ロ、ハの渡櫓、東小天守などの小天守群の内部をご覧いただけます。

期 間…2022年7月15日(金)～8月31日(水)

料 金…入城料に加え観覧料500円(大人)・200円(小人)

公開場所…乾小天守・イの渡櫓・ロの渡櫓・ハの渡櫓・東小天守(いずれも国宝)

見どころ



小天守群

乾小天守からは、格子のない火灯窓から圧巻の大天守(北西面)を見ることができます。また、乾小天守から東を望むと連立式天守の全容や東小天守の姿、中庭の様子がよくわかります。



ハの渡櫓

ハの渡櫓は西・乾小天守を繋ぐ渡櫓で、天守曲輪の建造物内へ入ることのできる入口が地下にあり、中2階を介して地上1階へ上がれます。この中2階下には廁が造られています。

ロの渡櫓

ロの渡櫓は1・2階とも東西約28.8m、南北約5.9m、面積約170㎡で、現存する渡櫓で最大級の規模を持ちます。



乾小天守

天守曲輪の北西に位置し、建築当初は、「いぬい(戌亥) やぐら」と呼ばれていました。外観は三重ですが、内部は地上4階、地下1階となっています。

イ・ロ・ハの渡櫓

外観二重、内部は地上2階、地下1階となっています。

東小天守

天守曲輪の北東に位置し、建築当初は、「うしとら(丑寅) やぐら」と呼ばれていました。外観は三重、内部は地上3階、地下1階となっています。

【ご利用案内】

	区分	個人料金(30人未満)	団体料金(30人以上)	備考
入城料	大人	1,000円	800円	18歳以上の方
	小人	300円	240円	小学生・中学生・高校生

開城時間 9:00～17:00(最終入城 16:00) ※7/23(土)～8/28(日)は9:00～18:00(最終入城 17:00)

※小学校就学前は、無料です

※姫路城・好古園共通券 大人/1,050円 小人/360円

姫路城便覧

姫路城の情報をリアルタイムにお届けしています。姫路城への旅行計画にどうぞ活用ください。

